

図 6 2つのシステムに属するDMU
 +……システムAのDMU
 •……システムBのDMU

群のDMUの方が平均的に高い位置にある)。しかし、効率的フロンティアで比較するならばシステムAの方がシステムBより優れているという結果を得る。個々のDMUがもつ非効率性はマネジメントの非効率性として考察すべきものである。従来の生産関数分析においてはこのような観点からの分析がなされることは少なかった……あるいは個々のDMUは効率的な運営がなされているという仮定がなされていた……ので、DEAによる分析はこの分野に新しい視点を与えるであろう。

図6に示す例では、システムAの効率的フロンティアはシステムBを一様に越えていたが、両者

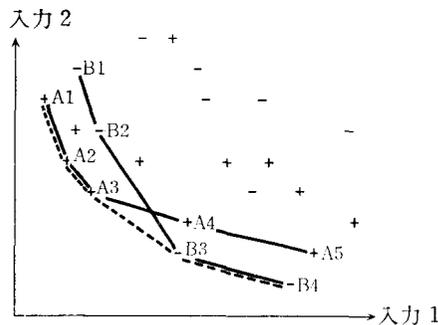


図 7 交差する効率的フロンティア
 +……システムAのDMU
 -……システムBのDMU

のフロンティアが交差する場合も起りうる。

図7に2入力、1出力のDMUを示す。出力はすべて1にしているのので、この図は一種の等高線とみなすことができる。点線で示したものが、全体としての効率的フロンティアであり、A1, A2, A3, B3, B4 からなっている。それに対して、A群の効率的フロンティアはA1, A2, A3, A4, A5であり、B群のそれはB1, B2, B3, B4である。このようにA+B, A群, B群という各分類毎にDEA分析をすることにより、システムのもつ効率性とマネジメントの効率性を分析することができる。

鈴木さんの退職

本学会の生き字引き、皆様ご存知の鈴木規子事務局長が2月末日で退職されました。OR学会30年の歴史の内、28年間を学会と共に生き、文字通り青春から中年のすべてを学会に捧げ尽くしてきた鈴木さんに心から「ご苦労様でした」とお礼を申し上げます。

鈴木さんの働きで印象的なことは、矢部庶務理事の要請で私が庶務幹事の仲間入りをした昭和42,3年頃のことです。当時、学会事務局は鈴木さん1人で、孤軍奮闘。一方、元氣……ばいの矢部・原野両理事を中心に、柳井・若山・前島・川野・福川諸幹事の面々、連日のように集まり学会発展のため終電近くまで激論を交わした。しかし、いつも後始末をし、事務的に整理するのは鈴木さんの役割であった。

さて、小生は、数年前から学会事務局に週2日ほど、

顧問として出向いているので、鈴木さんの日常のお仕事ぶりを見てきたが、依然、責任感はきわめて旺盛、何事にも中途半端な妥協は許さない厳しさ。一口に言って完全主義の頑張り屋。また、正義感も強い。これらの気質は、帝国陸軍軍人の息女として育てられたたまもの、と伺い納得した次第。

ところで、退職後の第2の人生は、今までできなかった趣味を手広く手がけて、大いに人生を楽しみたいとのこと。心ある会員諸兄姉は、末永く、折にふれ鈴木さんの相談相手になっていただくようお願いいたします。なお、今後1年間は囑託として関口正男新事務局長を補佐される由。

28年の貢献を感謝し、幾久しいご多幸を祈ります。

(小田部 齊)